

岩波新書で「認知科学」を読む

龍谷大学 理工学部 教授
小堀 聡

テキストについて：

心と脳——認知科学入門（岩波新書） 安西 祐一郎（著） 税抜定価：860 円

勉強会の進め方：

この本は入門書とはいうものの、内容的には密度が濃く、読み解くには背景となる知識が必要なので、分からないところは、皆さんから質問していただき、勉強会に集まった人たちに講義形式で補うようにしたい。

次回までにどこまでを読むかを決めておき、その範囲での質問を、次回の一週間前までにわたしにメールで送ってもらう、という方法を取りあえず採用している。

Web サイト <http://milan.elec.ryukoku.ac.jp> ※担当科目の講義ノートなどもあり
<http://milan.elec.ryukoku.ac.jp/~kobori/resume.html>
↑こちらに勉強会用のページを準備中

電子メール kobori@rins.ryukoku.ac.jp

第 2 学期の日程（予定）

月	日	曜日	時間
10 月	24 日	木	10:00～11:30
11 月	21 日	木	10:00～11:30
12 月	19 日	木	10:00～11:30
1 月	16 日	木	10:00～11:30

テキストについての覚書：

第 1 章 五つの人間像

<この章は概論であり、ここで様々な人間像を示すことで、問題を提起している。ここで触れられたことは後の章の随所に出てくる。>

コミュニケーションする人間

共感する心、イメージする心のはたらきが必要

感動する人間

感情、記憶、思考は切り離すことができないはたらき

思考する人間

知識、概念、言葉、意味などと結びついてはたらく

熟達する人間

感情、記憶、社会性、思考、言葉などのはたらきが連携

創造する人間

世界を自分の思考によって新しい見方で理解していく

第2章 現象から見た心

虹の色はいくつ見えるか

色を表す言葉が言語圏や文化圏でどう共有されているか、地域社会の人たちが虹の色をどんな言葉で表現しているかに依存している。

しかし、光のどのあたりの波長に名前を付けるかには規則性があり、心の中での色の見え方にはある程度の共通点がある。

また、脳での色の情報処理も共通のはずである。

このことから、虹の色の問題は社会、心、脳のすべてに関わっていると著者は述べている。

<以下、現時点で気づいたキーワードなどを記しておく。今後追記していく予定。>

青で書いた赤という字

「ストループ効果」（ストループ現象、ストループ干渉）

恐怖を感じる時

意識と意識下の経路（情報処理）の違い

赤ちゃんの愛

愛着

「赤ちゃん学」

気持ちが通じる

共感（気持ちの共有）

「心の理論」「サリーとアンの課題」（p. 205）

一生続く心の発達

右を見てから左

喧噪の中で呼ぶ声

「カクテルパーティー効果」

マドレーヌの回想

「マドレーヌ現象」（プルースト現象）

記憶と意識・無意識の関係：プライミング

海のイメージと匠のわざ

言葉の本質

問題の意味

大勝ちが大損か